

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 23 日現在

機関番号：32686

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23720087

研究課題名(和文)中国近代劇における学生演劇の系譜

研究課題名(英文)The system of student theater in chinese modern theater

研究代表者

鈴木 直子 (Suzuki, Naoko)

立教大学・ランゲージセンター・教育講師

研究者番号：10546146

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の主な研究成果は(1)陳大悲に関する北京以外の演劇活動(2)国立戯劇専科学校に関する資料収集と台湾話劇との関連性(3)国民党の派遣した留学生呉剣声の日本での演劇活動と台湾での演劇活動の一端の3点である。

国立戯劇専科学校の卒業生数名が1949年以降台湾に渡り、台湾の話劇に貢献していたこと、呉剣声もまた1949年以降台湾に遷移した人物であり、国民党系の演劇活動が台湾の話劇活動を牽引する一因となったことが判明した。これにより今後国民党の文化活動や台湾の話劇活動への影響までを視野に入れた研究の可能性が広がった。

研究成果の概要(英文)：Main study results of this research are following three point.(1)On dramatic activity beside Beijing by Chen Dabai (2) gathered materials on the National dramatic school and the relation with taiwan (3) Chinese Nationalist Party dispatched a student studying abroad, his name is Wu Jiansheng, a part of his dramatic activity in Japan and Taiwan.

A few graduate of the National dramatic school and Wu Jiansheng emigrated to Taiwan after 1949, they contributed to development of modern theater in Taiwan. It was found from these result that dramatic activity by Chinese Nationalist Party was the cause which promotes activity in Taiwan. These result hinted at the possibility of cultural activities of the Chinese Nationalist Party and relationship at a theatrical world of Taiwan and China.

研究分野：中国近現代演劇

キーワード：中国演劇 日中演劇交流 1930年代 国立戯劇学校 中台演劇交流 呉剣声

1. 研究開始当初の背景

中国の近代劇である話劇が誕生する 1910 年代から 1920 年代までの過程については、従来の研究では文明戯を中心とした研究が行われてきた。話劇史研究の立場から、中国では袁国興による『中国話劇の孕育と生成』(1999)、黄愛華による『中国早期話劇と日本』(2001)が、日本では瀬戸宏による『中国話劇成立史研究』(2005)が先行研究として挙げられよう。これらはいずれも上海で発展した文明戯に始まる商業演劇を中心に論じられたものであった。そのため研究代表者は上海以外に学生演劇の盛んであった天津と北京に着目し、北方での学生演劇についての研究成果をすでに数点発表していた。本研究ではこうした学生演劇が話劇の形成と発展に於いて重要な役割を果たしたとの仮説を基に、1910 年代から 1930 年代の各年代の学生演劇の系統を調査し学生演劇を商業演劇とは異なる一連の演劇活動と捉え、一連の学生演劇活動が話劇の形成と発展に対して及ぼした影響を考察することにした。

考察の対象として、話劇の形成期である 1910 年代、1920 年代、話劇の発展期である 1930 年代の時期区分の中で各年代に起こった学生演劇を取り上げた。彼らが推進した演劇運動がどう形成され、話劇の形成と発展にいかに関与していったのか、学生演劇が中国話劇にとって持つ意義を探究する。中国の学生演劇に関しては、各年代の演劇学校に関する個別の研究はあるが、それぞれの関連性についてはまだ研究のなされていない部分である。各年代の学生演劇は関与した人物や作品などから、ある程度の関係性が指摘できるものと考えている。特に 1930 年代の国民党系の演劇学校である国立戯劇専科学校は、1949 年の中華人民共和国成立後には中央戯劇学院に接收され、現在まで続く演劇学校の基礎ともなった学校である。学生演劇を系統立てて調査することは、現在まで続く中国話劇のルーツを探ることであり、中国で近代劇が形成された過程を見直す作業となる。

研究開始当初は研究代表者は早稲田大学坪内博士記念演劇博物館に所属し、1910 年代の話劇活動に参加した重要な人物である陳大悲や洪深についての研究を進めてきた。こうした研究の蓄積に加え、演劇博物館に所蔵される 1930 年代の演劇資料から中国人留学生の日本での演劇活動における従来見過ごされてきた演劇人に着目し、関連資料の収集と演劇人の足跡を追ってみることにした。

1930 年代に日本に留学した演劇人は国民党の派遣により来日しており、国立戯劇専科学校も国民党系の演劇学校である。国民党系の演劇活動については中国では以前はタブー視されてきたが、国立戯劇専科学校は話劇の揺籠とも言われ四川省江安にある史料陳列館が現在でも存在している。同館への訪問

と資料収集が本研究の最大の目的でもあり、本研究が共産党系の演劇活動以外の国民党系の演劇活動についての研究の一端となることを期待するものでもあった。

2. 研究の目的

本研究は中国の話劇がいかに関与され発展していくのか、その過程を学生演劇の側面から追究したものである。中国の学生演劇に関しては、各演劇学校に関する個別の研究は存在したが、それらの活動の相互の関連性についてはまだ研究が不十分である。そのため本研究では各時期の演劇活動を担った演劇学校や人物に焦点をあて、学生演劇が担った役割と中国話劇への貢献を考察する。

(1) 1910 年代、1920 年代については、陳大悲や余上沅、洪深といった人物と学生演劇の関連を調査する。

(2) 1920 年代後半になり左翼演劇が台頭すると中国の演劇人も分化していく。一つには左翼演劇の系統、一つには国民党系の演劇学校の系統が誕生するが、日本の左翼演劇との関連性については日本に留学した留学生の活動に焦点をあて調査を進める。留学生の演劇活動に関しては、北岡正子や飯塚容による演劇団体(中華同学新劇、中華国際戯劇協進会、中華戯劇座談会)の調査研究があるものの、まだ実態は不明瞭な点が多い。本研究では左翼演劇系統ではなく、国民党系の留学生について着目して調査を行った。国民党が日本に派遣した演劇留学生の中でも特に呉剣声という人物に焦点をあて日本での具体的な活動を探る。呉剣声は舞台装置を学ぶために来日した人物であり、日本の演劇人との交流や日本での活動を明らかにする。

(3) 国民党系の演劇学校として 1935 年に南京で誕生した国立戯劇専科学校も研究対象とし、関連資料の収集と組織の全体像を明らかにすることを目的とする。国立戯劇専科学校の史料陳列館の訪問と史料閲覧を予定した。

各年代における学生演劇の連続性と話劇における貢献を解明することが本研究の狙いである。

3. 研究の方法

研究の方法として、1910 年代、1920 年代、1930 年代の年代別に主な学生演劇活動を取り上げ、それぞれの関連資料の調査を行った。

(1) 1910 年代から 1920 年代にかけては、アマチュア演劇を提唱した陳大悲に注目し、彼の北京での学生演劇活動を調査した。また 1925 年に開校された北京国立芸術専門学校

の戯劇科についても調査し関連資料を収集した。この学校に関与した余上沅が 1930 年代には国立戯劇専科学学校の校長となっているため、国立戯劇専科学学校についても資料収集を行った。

資料収集に際しては、2011 年度に北京国家図書館、上海図書館で調査を行い陳大悲関連資料、国立芸術専門学校関連資料を閲覧、収集した。

(2) 1920 年代後半から 1930 年代にかけて、日本に留学し演劇を学んだ留学生についても調査を行った。特に 1935 年に日本に舞台美術を学びに来日した呉剣声という人物について、日本側の関連資料を収集し調査した。呉剣声は国民党により日本に派遣された留学生である。

また国民党系の演劇活動を知る一端として、国立戯劇専科学学校は非常に重要である。この学校は 1949 年の中華人民共和国成立後は中央戯劇学院に接收され現在まで続く国立の演劇学校となった。そのため、中国話劇の揺籠とも称される存在である。2012 年には国立戯劇専科学学校の跡地である四川省江安の国立戯劇史料陳列館に調査に赴き、館長から当時のエピソードを伺ったり史料閲覧を行うことができた。上海図書館でも資料調査を実施した。

(3) 呉剣声や国立戯劇専科学学校の調査を進めるうちに、研究当初には想定していなかった台湾との関連性が明らかになってきた。国立戯劇専科学学校の卒業生の何名かが 1949 年の中華人民共和国成立後に台湾に移住していたことが分かった。彼らは台湾で演芸界に残り、演劇、映画、テレビ界で活躍したという。いわば中国大陸の話劇が台湾の話劇活動も牽引したとされる。

また呉剣声の足跡を調査すると、やはり 1950 年代に台湾に残ったことが判明した。軍に在籍し台湾での演劇公演を行っていたが、その後は台湾の映画界に進出したらしい。台湾での詳細が不明なため、研究期間最終年度には台湾に調査に赴き、台湾清華大学の石碗舜教授や台北芸術大学の徐亜湘教授に教示を仰ぎ、関連資料の収集を行った。国立戯劇専科学学校の卒業生に関する書籍を入手することができた。

4. 研究成果

本研究による研究成果としては主に以下の 3 点である。

(1) 陳大悲に関する調査により、北京の学校演劇以降の彼の上海での活動や国民党系の演劇学校で教鞭を執っていたことが明らかになった。またラジオ劇にも関与していたことが判明した。

陳とアマチュア演劇については、調査成果

を論文にまとめ 2012 年に発表した。

洪深の翻案作品で中国話劇の指標ともされる『ウイングミア夫人の扇』という作品については、学生演劇との関連性から論じた論文を 2014 年に発表している。この論文を英語版に翻訳し、海外での公開発表も計画している。

(2) 国立戯劇専科学学校に関する資料収集が進み、台湾との関連性も判明した。

収集した資料整理が遅れてしまい、2013 年には国立戯劇史料陳列館による新たな資料集が刊行されたため、それらを読み込み引き続き調査を行っている段階である。今後資料を活用した研究成果の発表を準備している。

(3) 国民党の派遣した演劇留学生呉剣声に関する詳細が明らかになり、国民党の文化活動について考察する手がかりとなった。また建国後に呉が台湾に移っていることから、大陸と台湾の話劇活動への影響までを視野に入れた研究の可能性が広がった。

呉剣声が日本留学中に行った演劇活動に関する資料は、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館に所蔵される当時の演劇雑誌や上演プログラムを見つけた。また外交方面の資料からも何点かの資料を発見した。こうした新たな資料の紹介と呉の活動については、2015 年中に中国で行われる国際シンポジウムでの発表及び論文発表を予定している。

(2) と (3) に関しては、台湾との関連性については研究当初には全く予期しておらず、台湾側にそうした研究が存在することが分かった。これは本研究における最大の収穫となった。国立戯劇専科学学校の卒業生数名が 1949 年以降台湾に渡り、台湾の話劇に貢献していたこと、呉剣声もまた 1949 年以降台湾に遷移した人物であり、国民党系の演劇活動が台湾の話劇活動を牽引する一因となったことが知れた。

研究成果の報告として、最終年度末である 2015 年 3 月に立教大学に於いて研究会を開催した。本研究の成果の一部である呉剣声について研究代表者が発表を行った。また台湾芸術大学の徐亜湘教授を招聘し台湾と中国の演劇の関連性について講演を行った。中国演劇研究者の参加があり、貴重なアドバイスをいただいた。

台湾と中国の演劇方面での繋がりというのは、日本ではあまり知られていない分野であり、中国側からも政治的な理由から見過されるテーマである。そのため、今後の研究では中国だけではなく台湾まで視野に含めた研究の必要性を改めて感じる結果となった。

1930 年代の日本と中国の演劇交流を調査する中で、日本の劇団が中国大陸(満洲地区)

で行った公演についても副産物として調査できた。満洲も視野に入れた日本、中国、台湾の演劇人の交流については引き続き考察の対象としていきたい。将来中国、台湾の研究者と連携し本研究を基にした共同研究を行えればと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計2件)

鈴木 直子、話劇ウィングミア夫人の扇上演の変遷について、立教大学ランゲージセンター紀要、査読無、第32号、2014、pp.81-92

鈴木 直子、陳大悲とアマチュア演劇、中国文化、査読有、第70号、2012、pp.39-46

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計1件)

白井 啓介監修、上田 学解題、鈴木 直子解説、ゆまに書房、満洲映画第8巻、2013、269(21-41)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
<https://www.facebook.com/zhongguoxiandaixiju>

6. 研究組織

(1)研究代表者

鈴木 直子 (NAOKO, Suzuki)
立教大学・ランゲージセンター・教育講師
研究者番号：10546146

(2)研究分担者

なし ()

研究者番号：

(3)連携研究者
なし ()

研究者番号：